

平成23年度研究開発成果概要書

「新世代ネットワークを支えるネットワーク仮想化基盤技術の研究開発」

課題ウ：新世代ネットワークアプリケーション

副題：ヒトやモノをエンパワーする実世界情報アプリケーションと
バーチャル・ネットワークド・センシング技術

(1) 研究開発の目的

アプリケーションの関心を仮想ネットワークとして実ネットワーク上に創出し、そこで提供される複数のサービスを統合することでアプリケーションを構築できる、仮想ネットワークセンシング(Virtual Networked Sensing, VNS)機構を提案し、それを用いてモノ(SOO: Sense of Object)、人(SOP: Sense of People)、および社会(Sense of Society: SOS)に関するセンサネットワークアプリケーション群を創出し、課題アおよびイで構築されるプラットフォーム上で、それらの実証実験を行う事を目的とする。

(2) 研究開発期間

平成23年度から平成24年度(2年間)

(3) 委託先企業

慶應義塾大学<幹事>

(4) 研究開発予算(百万円)

平成23年度	31(契約金額)
平成24年度	26(〃)

(5) 研究開発課題と担当

課題ウ-1-1：仮想ネットワークドセンシング基盤の研究開発

1. 仮想センサネットワーク構築運用技術(慶應義塾大学)
2. 仮想センサデータ流通技術(慶應義塾大学)
3. 仮想センサネットワークサービス構築統合技術(慶應義塾大学)

課題ウ-1-2：仮想ネットワークドセンシングアプリケーションの研究開発

1. Sense of Objects(SoO)技術(慶應義塾大学)
2. Sense of People(SoP)技術(慶應義塾大学)
3. Sense of Society(SoS)技術(慶應義塾大学)

(6) これまで得られた研究開発成果

		(累計) 件	(当該年度) 件
特許出願	国内出願	0	0
	外国出願	0	0
外部発表	研究論文	2	2
	その他研究発表	12	12
	プレスリリース	0	0
	展示会	6	6
	標準化提案	0	0

具体的な成果

- (1) XML ベースの仮想センサネットワーク記述言語の策定及び定義された仮想センサネットワーク内でのセンサデータ流通技術の研究開発
- (2) 仮想センサネットワーク内におけるセンサデータ分散処理技術の研究開発
- (3) 海外の大学(カールスルーエ大学, **CMU**)との連携を開始し、実験用テストベッドの一部をカールスルーエ大学の **TECO** に設置し、テスト運用を開始
- (4) アドホック型会話状況検知技術の研究開発
- (5) 社会イベント検出のための場所誘因型位置情報付き発言の検出・可視化技術の研究開発

(7) 研究開発イメージ図

別紙参照